

# 被災地の現状と調査の視点を探る

## — 鑑定人はいかに動いたか — (下)

熊本地震では、市内のRC（鉄筋コンクリート）造マンションやビルなども損壊しており、地震力の凄まじさをあらためて思い知らされる。今回は鑑定に当たった渡邊雅治氏（日本アイラック鑑定人・一級建築士）と契約者とのやりとりの中から見えてきた課題などを含めて考察したい。依然として、地震保険を火災保険同様に実損でん補の保険だと思いたい。見積書を手渡す契約者もいる。一方、一級建築士として被災契約者から、現在の住宅に今後、住み続けられるのかといった相談を受けることもある。これらの状況は、鑑定人が単に地震保険の調査だけにとどまらない事実を示している。

### 一部のマンションでせん断破壊

RCの建物の被害はそれほど多いとは言えないが、深刻な損傷を受け、全壊となったケースもある。



① 5階部分の柱脚が損壊し、全壊となったマンション②傾斜して解体が始まったビル

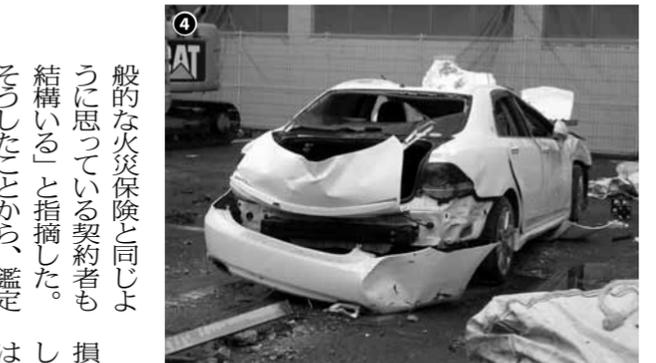
## 記者の視点から

### 熊本地震 第2弾

RCの建物の被害はそれほど多いとは言えないが、深刻な損傷を受け、全壊となったケースもある。RCの建物で柱にこうした亀裂が入るのは珍しい。このマンションは5階部分に強力な地震を受け全壊となつている（写真）。渡邊氏は「RC建物は柱にこうした亀裂が入ると上階の重量を支えるだけの断面がなくなり、鉄筋だけで支えている格好になる。柱は荷重と振動に耐えられず、ねじれるように破壊されてく

る。建築後30年から40年ほど経過したある10階建てマンションでは、5階柱脚部分に甚大な損傷を受け全壊となつている（写真）。渡邊氏は「RC建物は柱にこうした亀裂が入ると上階の重量を支えるだけの断面がなくなり、鉄筋だけで支えている格好になる。柱は荷重と振動に耐えられず、ねじれるように破壊されてく

また、同様に、市内のビルでは、1階の柱脚部分がせん断破壊を起



③石垣が崩れた熊本城④つぶれた車

チャットつぶれてしまふ」と解説する。柱に残されたバツ印のような痕跡が、その証しだとい

き、4階の医院の診療台が窓ガラスを突き破って出ていたところもあったという。マンションの場合、建

## 一部契約者に地震保険の理解不足

### 建物の相談受けることも

物と家財で被害状況が大きく異なるケースもある。建物の共用部分が一

契約者はすぐに納得するの

一方、明らかな半損でありながら全損ではないかと主張する契約者もいる。そうしたケースでも、

### 現場での対応の難しさを指摘

契約者は地震保険を理解しているのか、渡邊氏に質問してみた。すると、「調査に訪れたある契約者宅で修繕業者の修

現場での作業を手間の掛

また、最近SNSで再鑑定をあら表現が見られることもある。「私

また、最近SNSで再鑑定をあら表現が見られることもある。「私

また、最近SNSで再鑑定をあら表現が見られることもある。「私

### 契約者の不安に応えるのも仕事

建物構造が現場で異なることもある。コンクリート造だと思つて調査に行つたところ鉄骨構造だ

熊本地震後、家族が実家に避難して別居している契約者からは、「保険で住宅が直せるから妻と子どもを迎えに行くことができ

根幹に関わることだけに、被災者に寄り添いながらもしっかりとした対応が求められることは言うまでもない。

日本アイラックの国原秀則社長も「半損の住宅は修理した方がよいのか、建て直した方がよいのか、微妙な壊れ方もある。被災者の不安に親身に応えようとする、すぐに1時間や1時間半はたつてしまふ」と語る。

熊本地震の地震保険付帯率は約60%と全国平均より幾分高く、すでに地震保険で生活再建に取り組んでいる被災者もいる。地震後、家族が実家に避難して別居している契約者からは、「保険で住宅が直せるから妻と子どもを迎えに行くことができ

また、今回、道案内を求めたタクシードライバーの井上鉄也氏も住宅が全損となった。井上氏は昨年10月、火災保険の契約更改時に代理店に勧められて地震保険に加入したという。「保険がなく、すべてがゼロだと思つたら憂鬱（ゆううつ）になつていたらどう。今は、まったく落ち込んでない。保険を勧めてくれた方々に足を向けて寝られない」と述べる。

熊本地震後、豪雨にも見舞われている。ブルーシートの隙間からは雨も漏る。今後は台風シーズンも控えているだけに、複合災害にも注意を要する。

（記者・森隆／防災士）